226　中央大学英語講演会

〔『法学新報』第十八巻三（二〇七）号
明治四十一年三月一日〕

○中央大学英語講演会　去月八日午後三時より中央大学紀念講堂に於て同会を開催し学長菊池法学博士は明晰なる英語を以て「英語の修業は熱誠ならさるへからす何事によらす熱誠は成効の基なることは多忙なる武威君、家永君の今日講演を快諾せられたるは廣井君の熱誠の賜にして此一事を以ても証拠立るを得へし語学を学ふ者は又語学の研究は目的にあらす手段なることを忘るへからす即ち能弁は好通弁にして能文は好作者に過きさるへし要は語学の研究は其知識見解を該博ならしむるの手段に外ならす外国語を能くする者は言ふ迄もなく其国の人情風俗に

通し其人情風俗に通すれは其国を贔負(屓)にするの考の起るは自然の成行にして武威君の日本贔負(屓)も恐らくは此点に基くならん而して日本の文物を実見して益其趣味を増されたるなるへし諸君も語学を能くし米国の事情に精通せは必す米国贔負(屓)となるへし殊に米国は土地広漠にして国民は但懐宏量、嫉妬猜疑の心少なし現今に於ける太平洋沿岸の騒動の如きは真の一時的のものに過きさるへし往年斯る事は屢々繰返されたるものにして愛蘭人排斥、黒人排斥、支那人排斥の如き即ち然り然れとも此等の人種は今は皆安全生活し業務も繁昌し居れり畢竟此種僻見は一部の人に止まり何時も米国民の意向にはあらさるなり米国は元来自由の国にして日本に比し頗る成効の便宜大なるを信す是故に吾人は活気ある青年は米国を好まねはならぬことと考ふ物事書籍に依りて学ふ所は伝聞に過きす青年諸氏は既に語学に通する以上は彼の国に行きて実地に学ふことの利益多きは百聞は一見に如かすとの諺によりて知るを得へし之に依り吾人は青年諸君に外国行を勧むるものなり且つ外国に行きたる已上は見聞を広むると共に其気に入りたる場所に自分の本拠を定むることを要す人間到所有青山と云へなから其到所を日本に局限するは謂れなきことならすや青年諸君は既に大国民を以て自任する已上は須らく此固陋なる量見を脱却せさるへからす吾人此所に家永君を紹介して之を証拠立んとす」との主旨を述へらる次に廣井主幹の紹介に依り新に帰朝せられたる「シカゴ」大学教授米国哲学博士家永豊吉氏は流暢なる英語を以て日露戦争の欧米に及ほしたる影響と題して「日露戦争は欧米に偉大なる影響を与へ露国の憲法制定となり各国の同盟となり協商となり内治外交種種なる方面に其影響を及ほしたりとて欧米現時の状況を詳説し更に進て日露戦争以前に於ける東西両洋互に相軽視したる有様を説き其原因は人種の差と宗教の異なるに在りと論し学理に依り或は事実に依りて遺憾なく之か論拠を示され更に論歩を転して歴史上の事実に依りて東西両洋を接近せしめ其間に介在せる障壁を除かんとせし偉人傑士の事蹟を述へて此等の偉人傑士も皆其目的を達することを得す中途に挫折したり然れとも日露戦争は此目的を達し東洋の文明を世界に紹介したるのみならす白人の黄、銅、赤色人種を以て常に劣等なる人種なりとせし迷夢を破りたり実に満州の野に流したる血と幾万の犠牲は世界歴史に一大光彩を添へたり」と論結して降壇せられ終に米国「ジョージタウン」大学出身前弁護士武威氏は廣井主幹の紹介に依り徐に登壇して米国と日本の関係と題する一場の講演あり（講演の筆記は次号に掲載すへし）漸く暮色蒼然たる頃喝采声裡に散会を告けたり当日は各校英語教員学生等の聴衆講堂に嗔咽したるに拘はらす何れも熱心静粛に傾聴し近来稀に見る所の盛会なりし

因に講演者米国人武威氏の略歴を紹介せんか武威氏即ヘンリー、エス、ボイ氏は米国マリランド州に生れ家は同地の名族にして同族中より三人のマリランド知事及ひ墨西哥戦争中アラモを攻圍したる一勇将を出たせしことは氏の常に誇示せらるるところにして厳父は桑港創設者の一人なるか之は米国海軍軍医なり祖父は弁護士曽祖父は「プレスビテリアン」派の

信者にして革命戦争中常に母国（英吉利）の為に盡ししを以て知らる（其略伝は載せて"The Loyalists of America"に在り）ボイ氏はカリフォルニヤにて基礎教育を受けコロンビア州「ジョージタウン」大学に入りて法律学を修め二十一歳にして弁護士たるの資格を得後、八年間欧州大陸を漫遊し仏、西、伊、独、蘭等の語学を学ひ又時に希臘土耳古等に遊ひて見聞を広め得るところ尠からす氏は桑港に於て十八年間法律事務を執りしか千八百九十三年最愛の夫人を喪ふや鬱鬱として楽ます飄然去て我国に来り其風光の明媚なると習俗の温雅なるとは大に氏の旅情を慰め遂に日本語の研究を思立に至り其カリフォルニヤに帰るや直に同地駐在の領事上野氏に就て邦語の学習を始め再ひ日本に遊ふや京都に於て平井金三氏に身を寄せて学習すること数年多趣味なる氏は同時に邦画を鈴木梅嶺門下の秀才西川洞嶺に学ひ後久保田米僊氏に就て研鑽五年の久しきに及へり我国に渡来すること前後五回其米国に在るや各種の方面に於て在米邦人の為めに助力し又常に日米両国間の友誼親睦を増進するに力め至大の努力を為し或は米国日本協会を創立し（実に氏は該会最初の会長にして又現に再選せられて其職に在るなり）或は「スタンフォード」大学を始とし到る所に演説して本邦の芸術を紹介し日本鼎負（扇）の名四方に喧伝し日露戦役に当りては我陸海軍の戦勝するや氏は欣喜措く所を知らす其武勲を永遠に表彰せむとし多額の費用を投して一大凱旋門を造れり氏の「サンマティオ」の別邸に建てられたるもの即ち是なり氏は又漢字の研究に深き趣味を有し一六居士及ひ辻香雨氏に従ひて書法を研究し習字に多くの時間を費し斯道の珍蔵品亦頗る多し氏の手に成れる日本画は見るへきもの多く京都、名古屋、東京の各勧業博覧会に於て大に賞讃を博し前後二回宮中御買上の栄誉を荷ひ武威の署名も亦見事なる筆蹟たり氏の性行上聞に達し嚢に勲四等旭日章を授与せられしことは諸新聞紙に依り世上に紹介せられ尚ほ世人の記憶に新なる所なり